



AI主権 (AI Sovereignty) と AX (AI Transformation) の確立

自律型AI時代における日本の国家戦略：技術、行政、投資、防衛の包括的アプローチ

日本の「勝ち筋」：AIエコシステムの構造

Inspired by SOURCE_IMAGE_1



フィジカルAI (Physical AI)

現実世界で動くAI。ロボットやハードウェアでの実行。



バーティカルAI (Vertical AI)

現場データ（暗黙知）のAI化。独自エコシステムの構築。



戦略的自律性 (Strategic Autonomy)

計算資源、データ基盤、モデルを自律運用。特定国・企業への依存脱却。



4つの基本方針と具体的施策



AI利活用の加速 (AXの推進)

組織を再設計するAXを政府から地方・中小企業へ波及。



1兆円超の政府投資と「ステージゲート方式」有望な研究への継続投資と効率的な資金配分。創業・新素材開発を加速。



AIガバナンスと安全性の強化

AISI人員倍増、国際評価能力の確立、ディープフェイク対策支援。



「Human Agency (人的主体性)」の維持。リベラルアーツ教育等を通じ、人間の課題設定能力を向上。

安全保障：Project YATA-Shield (八咫の盾)



「AI vs. AI」の防衛ドクトリン

自律行動型AIによるサイバー攻撃に同等以上のAI能力で対抗する新体制。



15の重要インフラ分野の保護

金融、電力等の重要インフラ対象。AI活用アジャイル脆弱性管理と官民連携強化。

ガバメントAI「源内」の活用実態

高度な生成AI機能の利用状況 (人数ベース)



18万人の政府職員が利用。国会答弁、書類審査効率化に貢献し、国産LLM育成エコシステムとしても機能。

SOURCE_IMAGE_2

課題と展望

アジャイル・ガバナンスのジレンマ

「まずやってみる」速度と事故情報共有・監査などの「制度的歯止め」の同期が鍵。



民主的プロセスの確保

透明性の高い対話と継続的な検証の必要性。パブリックコメント期間への懸念に対応。

